

令和7年度 第3回 学校評議員会

日 時：令和8年2月27日（金） 13時30分～14時30分

場 所：本校会議室

出席者：学校評議員6名 学校職員10名

1. 開会

2. 学校長挨拶

- ・今年度も生徒は落ち着いた学校生活を送っている。課題研究や各種コンテストなど校外での活躍が見られる。校内アンケートでの学校生活に対する満足度も高い。
- ・屋代高校の志願状況について、募集定員に達するかどうかの状況。本校への志願しづらさについては把握しきれないところがある。
- ・長電バス「屋代須坂線」の廃止についてニュースになったが、PTA署名や生徒アンケートの実施により令和9年3月末までの現状代やでの運行と、その代替バス確保が決定した。公共交通手段の確保は生徒募集や学校の特色化にも関わるので、引き続き働きかけを行っていききたい。

3. 学校からの説明

(1) 附属中学校の取り組み

- ・SSH 関連の特設学習による知的好奇心を引き出す学びや、学力を支える3つの柱（授業改善・探究学習・家庭学習）の確立による確かな学力の育成に取り組んできた。
- ・特に家庭学習の定着について職員一同取り組んできた。生徒の自主性や自己調整力を伸ばす家庭学習の仕組みづくりを保護者にも協力を求めながら行ってきた。
- ・各教科や総合的な学習の時間に関するコンクールでは多くの賞を受賞した。
- ・豊かな人間性を育む取り組みでは、1年の宿泊学習を5月に行った。仲間と安心して学習できる環境を作るために例年より早く実施をした。また、不登校ぎみの生徒には早めに対応をして、学校に来られない生徒は現在いない。
- ・学力推移調査では後期に学力の向上が見られた。総合的に学力を高める取組を次年度も続けたい。
- ・2月20日（金）に今年度の学びの集大成となる総合文化発表会を実施した。また、成果発表交流会として市立長野中、信大附属長野中、松本中、諏訪清陵附属中と合同発表会を開催した。他校の生徒と交流し刺激を受けたい機会になった。
- ・制服検討委員会を立ち上げ、夏場の暑さ対策として、次年度ポロシャツの導入を目指して検討を進めている。
- ・外部への発信として、HPの更新が進まない時期があった。次年度は本校の特色が伝わるよう発信を行っていききたい。

(2) キャリア教育

- ・1月の大学入試共通テストは88%の生徒が科目を絞らず、6教科8科目型で受験。全国比で昨年度なみの結果を維持している。全国的に上位が点数を落とした傾向があり、本校も同様の傾向があった。
- ・国公立大に多くの生徒が出願している。県内の国公立への出願が例年以上にいる。
- ・年内入試が活発になっている。本校でも第一志望の大学・学部であれば、学校推薦型や総合型選抜への出願も視野に入れた進路指導をしている。

(3) 生徒指導

- ・年間を通じて大きな生徒指導がなく、生徒は落ち着いた生活を送ることができた。
- ・自転車の安全な運転について継続的に指導を行っているが、今年度も自転車の事故が一定数あった。来年度からは自転車の青切符制度も始まるので、継続的に注意喚起を行っていく。

- ・しなの鉄道、JRが3月より「Suica」を導入する。電車の利用についても環境の変化に対応しながら指導していきたい。

(4) 生徒支援

- ・今年度は稲荷山養護学校巡回指導職員と連携を図って、生徒支援計画を立ててきた。生徒の実態に応じた支援が実施できた。
- ・スクールカウンセラーの利用者は、生徒・保護者合わせてのべ120名程度。有効的に活用ができた。
- ・体調面で不安のある生徒に対し、定期考査の別室対応を実施した。今年度は校内でオンライン対応を必要とする生徒はいなかった。

(5) 生徒会

- ・12月に稲荷山養護学校との交流会を実施した。異校種との交流を通じて新たな学びがあった。
- ・生徒会予算が物価高のため、今までのように必要な物品を買えない懸念がある。生徒会としてどんな活動を行い、どのように予算を節減していくのか、検討を重ねていく必要がある。

(6) SSH

- ・令和6年度から8年度までの3年間は先導的改革型Ⅱ期として、地域の科学教育を先導する立場で事業を展開している。
- ・3学年「SS探究」では、2年次までの研究成果を英語でまとめなおした。7月に研究発表会を行った。台湾の提携校とオンラインで発表交流を行ったり、県内のALTを招いて英語での質疑応答を行ったりした。生徒は緊張していたが頑張って英語でのやりとりをした。
- ・10月には「NSC課題研究研修会」県内外から約100名の生徒、教員に参加してもらい実施した。運営校として生徒たちが進行し、生徒が生き生きと交流していた。互いに課題研究に力を入れる生徒同士の交流で生徒はよい刺激を受けた。
- ・理化班の研究が県のコンテストで評価を受け、北信越大会に出場した。3位となる優秀賞を受賞した。身近な現象に着目し、科学的に分析をしていく過程が評価された。
- ・令和9年度以降、SSH予算支援終了後の事業継続については、内容を精選して保護者負担もお願いしながら、長年培ってきた教育を継続していく。

(7) 学校評価について

- ・評議員の皆様からのアンケート結果を踏まえ、今後の学校づくりをしていきたい。特に、生徒の進路実現に向けての体制づくり、校内美化の充実について改善できるよう努めていく。

4. 学校評議員からの質疑及びご意見

○ご質問・ご意見

- ・志願者数減少については文武ともに高い実績を出している現状を踏まえると、立地的なハンディがあるのかもしれないと感じる。ハンディを押してでも来たいと思われる魅力を伝えることが必要。受け身ではない生徒発信の学習活動について大変強い思いをもって取り組んでいるので、それらの実績・成果等のPR方法を工夫してみてはどうか。
- ・志願者減少は、以前は通う範囲が小さかったものが、現在は広域から通うようになってきているなどの地域性の問題があるのではないか。
- ・子どもの数の減少により志願者が減るのは仕方ないと思う。学校の特色を出すために学校職員が努力されていると感じている。SSHなど今までの学習の成果を継続していけるように頑張ってもらいたい。
- ・志願者数については中学側の立場から私立の無償化の影響は大きいと感じる。
→本校への進学は3区（長野北部）については令和3年度は30%あったものが令和7年度に21%となっている。4区（千曲市、長野南部）は68%→69%と大きな変化はない。東信地区は微増。長野市街からの入学が減っているのは私立授業料無償化の影響もあると考えている。職員が中学に向いて本校の魅力について説明する機会を作っていきたい。

→新しい HP を作成している。次年度リニューアル予定で生徒の活動等についても見やすくしようと整えている。

- ・共通テストに向けて士気を高める雰囲気づくりを学年全体で進めていってほしい。進路状況は高校の宣伝効果にも関わってくると感じる。

→それぞれの生徒を伸ばしていく方策としてどのような声かけを行うかなど様々な方法を職員で共有している。集団で切磋琢磨できる環境を1・2年のころから行いたい。

→大学生に来校してもらい学習や進路について話をしてもらった。すぐ上の先輩の声を聞く機会をとることで進路へのモチベーションにつなげていきたい。

- ・大人目線では見えにくい人間関係の状況がアンケートから見えているように感じる。どのような内容がアンケートからわかったのか、アンケートの精度を高めるためにどのように工夫しているのか答えられる範囲で教えてほしい。

- ・いじめなど全国的に話題となっている問題について、アンケートをとっても表には出てこないのではないか。それを把握する術を考えられるといいのではないか。

- ・スクールカウンセラーについて、多くの生徒が利用している様子がある。小さなことが気になる年頃なのでスクールカウンセラーを利用して問題が大きくならないうちに解決できるといい。

→学校生活アンケートを年2回行い、管理職で確認している。大きないじめの事案はないが、孤立しがちな生徒を気遣う声や人間関係で困っているという声を丁寧に聞き取り支援者に伝えることで支援体制を構築している。また、生徒支援の係会、学年会などで情報の収集や共有を進めている。生徒の中で周りを気遣う様子が見られ非常に助かっている。

→悩む生徒は多い。継続して利用することで生徒の生活をサポートしたい。

- ・社会で活躍できる力、自ら考えられる姿勢が身に付いているかが大切。そういった点で、SSH は良い活動である。今後 SSH の活動が縮小するのは残念。予算面について企業によるふるさと納税など多くのところにアプローチしてみてもどうか。

→SSH の事業を継続していくために同窓会からの支援と私費負担のお願いを考えている。ふるさと納税利用や企業に広げるかについては研究中である。

- ・附属中で行っている自主学習と同じように市町村立中学校でも自ら学ぶ姿勢を大切にしているが、親の前で学習する姿が見られないと不安になる保護者はいる。保護者の理解を得ていくことも必要ではないか。

→附属中でも、もっと宿題を課してほしいという保護者と宿題をやる時間がないので配慮してほしいという両方の意見がある。中学では自己調整力を高めたいと考えているが、生徒の取り組みに差が現れている現状である。取り組みが滞る生徒に対しては、なぜやらねばならないのか目的を伝えて自主的に取り組めるように改善していきたい。

- ・職員による学校自己評価を見ると高い評価が出ていると感じる。そのような評価を見ると職員自身がプライドをもって教育を行っている姿が保護者等に伝わるのではないか。

→各部署で次年度に向けて準備を進めている。職員自身が自信をもって働ける環境を今後も続けていきたい。

- ・地域で行き会う屋代高校生の中で、あいさつしてくれる男子生徒がいる。高校生でこのような姿は感心する。

→地域の方からお褒めの言葉をいただいたことを全校に伝えていきたい。

- ・学習も大切であるが部活動の仲間に助けられることがある。部活動も頑張ってもらいたい。

- ・地域移行によって中学の部活動がなくなっている。高校での部活動に魅力を感じる生徒もいると思うの

で HP 等での発信をしていってほしい。

→部活動が学校選択の1つではあるが、新しい部を作りたいという意見も多くあり顧問の配置など対応が難しい面もある。

→生徒のニーズが多様化してきている。既存の枠にとらわれない新しい枠組みが出てくる時代であり、自分の興味に応じてクラブ化を望む声がある。探究活動と関連付けながら学校の中で取り組めるような仕組みを模索したい。

・新しい HP を楽しみにしている。生徒が発信するなど様々な発信が多く目の触れる機会がもてるのではないかな。

→生徒自身が HP の一部分を担うような形を考えている。生徒の様子や考えが伝わるものにしていきたい。

○校長より1年間のまとめ

・職員の自己評価を評議員の皆様にご評価していただいた点や、生徒の様子をしっかりと見ていただいていることをそれぞれに伝えて励みにしていきたい。

・魅力発信への提言を今後にかしていきたい。

・生徒の学校生活の充実と可能性を伸ばすということに職員一同励んでいきたい。

5. 諸連絡

6. 閉会